

## 再評価結果（平成31年度事業継続箇所）

担 当 課：都市局街路交通施設課  
担当課長名：本田 武志

事業名	高規格 IC アクセス 都市計画道路 横浜藤沢線（関谷工区）	事業区分	街路	事業主体	神奈川県
起終点	自：神奈川県鎌倉市関谷 至：神奈川県鎌倉市城廻	延長	0.6km		
事業概要	本事業は、鎌倉市関谷（横浜市境）から鎌倉市城廻に至る延長約 0.6km 区間で、片側歩道で 2 車線の道路を両側歩道で 6 車線の道路へ拡幅するものである。また、隣接する横浜市施工区間とともに、国で施工中の横浜湘南道路及び高速横浜環状南線（仮）栄 IC・JCT の開通に合わせて供用できるように整備を進めている。				
平成 21 年度事業化	昭和 44 年度都市計画決定	平成 21 年度用地着手	平成 30 年度工事着手		
全体事業費	20 億円	事業進捗率	67%	供用済延長	0km
計画交通量	50,900 台/日				
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 5.7 (残事業) —	総費用 (残事業)/ (事業全体) -/21 億円 事業費： -/21 億円 維持管理費： -/0.3 億円	総便益 (残事業)/ (事業全体) -/121 億円 走行時間短縮便益 -/96 億円 走行経費減少便益： -/25 億円 交通事故減少便益： -/0.35 億円	基準年 平成 30 年	
感度分析の結果	(事業全体) 交通量 : B/C= 5.1~ 6.3 (交通量 ±10%) (残事業) 交通量 : B/C=27.8~33.9 (交通量 ±10%) 事業費 : B/C= 5.2~ 6.3 (事業費 ±10%) 事業費 : B/C=28.2~34.0 (事業費 ±10%) 事業期間 : B/C= 5.5~ 6.0 (事業期間±20%) 事業期間 : B/C=30.0~31.4 (事業期間±20%)				
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜市域と湘南地域の連携強化</li> <li>・横浜湘南道路及び高速横浜環状南線（仮）栄 IC・JCT へのアクセス強化</li> </ul>				
関係する地方公共団体等の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元自治会 : 道路整備の促進及び早期完成を要望する。</li> <li>・神奈川県商工会議所連合会 : 県内への新たな企業立地の促進や、沿道市町の活性化のため、圏央道及びアクセスする周辺道路の整備を要望する。</li> </ul>				
事業評価監視委員会の意見	事業の継続を承認する。				
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	横浜市域では、国により横浜湘南道路及び高速横浜環状南線の整備が進められている。				
事業の進捗状況、残事業の内容等	用地取得率：85%、残事業：用地取得・道路改良工				
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	残る用地取得を進めるとともに、横浜湘南道路及び高速横浜環状南線（仮）栄 IC・JCT や横浜市区間の工程と調整を図り事業を推進する。				
施設の構造や工法の変更等	—				
対応方針	継続				
対応方針決定の理由	・本事業は、横浜市域と湘南地域を結ぶ広域的な幹線道路ネットワークを形成するとともに、圏央道の一部を構成する横浜湘南道路及び高速横浜環状南線（仮）栄 IC・JCT へのアクセス強化が図られるなど、事業の必要性に変化はなく重要性は依然として高いことから、事業を継続する必要がある。				

